

「授業改善のための学生アンケート」2021 年度後期 顕彰授業における工夫

2022 年 6 月 9 日

白百合女子大学 FD 推進委員会

2021 年度後期「授業改善のための学生アンケート」の顕彰授業における工夫をご紹介します。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。

【参考】 顕彰の対象となったアンケート項目は以下の 7 項目です。

- Q3 この授業に主体的に取り組むことができたと思いますか。
- Q4 この授業の内容を十分に習得できたと思いますか。
- Q7 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。
- Q8 教科書や配付資料など、教材は適切だったと思いますか。
- Q11 学生の質問や相談に対して、教員は適切に対応していたと思いますか。
- Q13 この授業の目的や到達目標を十分に理解できましたか。
- Q14 この授業の内容に興味を持つことができましたか。

少人数部門

「領域言葉」 土橋 久美子（人間総合学部初等教育学科） 2021 金 3 後

「領域言葉」は、幼児教育・保育を学ぶ学生が履修する授業です。絵本や紙芝居、パネルシアター、ペープサートなどの児童文化財の特徴や活用方法を学び、演習（保育実践）を通して、保育者の役割などについても理解を深めていきます。保育の中で子どもたちと楽しむ教材を自ら作り出していく、学生の主体性が求められる授業です。保育者を目指す学生を育てる使命も担っているので、授業の取り組み態度や課題提出について、他の科目よりも厳しい授業だと思います。学生一人ひとりがその厳しさに向き合い、演習を通して達成感や満足感を得ることが出来るよう、学生との対話を常に持つことを意識していました。

コロナ禍の演習など様々な制約がある中で、どのように学生とコミュニケーションを取っていくのか、常に学生の取り組み方をイメージしながら授業展開を考え進めていきました。紙芝居を演じる保育実践では、学生同士の間隔に気をつけながら演習を行い、良かったところや課題点などお互いに意見を交換し合いました。ペープサートや牛乳パックの人形制作では、友達と一緒に取り組むことで多くの刺激が生まれ、制作意欲につながったと感じています。

授業内で使用したパワーポイントは、毎回 manaba course のコースコンテンツに掲示し、各自で復習できるようにしました。1 月、遠隔授業となった際にも、レポートサイトで教員からコメントを返すなど manaba course を活用しました。残念だったことは、この授業の集大成といえる「なんでも BOX 実践発表」が遠隔 Zoom 授業となってしまったことですが、学生の自宅にある身近なものをパネル板にして、作成した「なんでも BOX」を画面上で発表することができました。Zoom 画面いっぱい、学生達の「なんでも BOX」と満足そうな顔が並んだ光景は今でも目に浮かびます。

幼児教育・保育における「領域言葉」のねらいとして、「言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」とあります。この授業を通して、学生自身の言葉に対する感覚や表現する力がより一層磨かれることを期待しています。「この授業を受講して、自分が将来子どもの前に立っている姿を想像することができた」「子どもが言葉を育むにあたってどんな保育方法があるのか、どんな道具を使うのか、その道具をどう利用するのかなど具体的な想像ができた」、学生からの感想です。「想像、イメージする」これは、教員にも必要なことだと思っています。これからも学生の取り組む姿を想像しながら、授業内容を検討し展開していきたいと思っています。

多人数部門

「保育体験Ⅰ」 土橋 久美子、目良 秋子、椎橋 げんき (人間総合学部初等教育学科)

2021 火4・5 後

「保育体験Ⅰ」は、初等教育学科幼児教育コース1年生が受講する授業です。子どもと直接触れ合う体験を通して乳幼児期の子どもの姿を知り、保育士の職務や保育所という場について理解を深めることをねらいとしています。本学学生の学びのために、調布市内の8つの保育所の協力を得て、2021年度後期は、一人3回の保育体験を行いました。この授業では、保育体験後のレポート作成や大学での振り返り授業の参加と、学生自身が主体的に取り組むことが必須となっています。コロナ禍での保育体験ということで、学生自身の体調管理も求められました。今回、学生からのアンケート結果から高い評価を得る事ができたことは、コロナ禍の中でも受け入れてくださった保育所の先生方が温かく見守り、時に優しくアドバイスをしてくださったおかげだと思っています。

保育所での保育体験実施前には、対面とZoomでの事前指導を丁寧に行いました。「保育体験のしおり」を用い、保育体験の進め方やレポート作成について説明を行い、前期保育体験を受講した2年生との意見交換も行いました。先輩からの話を聞いて、初めての保育体験に不安を感じていた学生もホッとしたようでした。

この授業は3名の教員で担当しています。事前指導や振り返り授業など、それぞれ分担し担当しました。manaba course を使った体験レポート個別コメントや個別相談など、学生の気持ちに寄り添いサポートすることに努めました。保育所での体験を通して、多くの学生が学内での理論的学びとの違いなどを実感することが出来たようです。大学での学びと現場の学びとの往還は、この授業の目指すところです。

「実際に園の雰囲気を感じることができた」「レポートにコメントを返してもらえたので次回につなげることができた」「本番の実習前に一度保育所に行くことができるのは良い」など、前向きな感想が多かった点も学生自身が主体的に授業に取り組んだ結果だと感じています。コロナ禍の保育体験ということで、学生に負担をかけてしまったことも多かったと思います。今後も学生自身の保育に対しての具体的なイメージを持ちながら理論的学びを深められるよう、改善できるところを検討しながら教員同士連携を取り進めていきたいと思っています。